

朝鮮通宝

ハングルを作った世宗大王が発行したコイン



出土遺跡 那珂川町五ヶ山網取遺跡^{ごかやまあみとり}

ハングル文字を制定したことで知られる李氏朝鮮第4代世宗^{セジョン}が1425年に発行した李氏朝鮮時代最初のコインです。

最初に鑄造されたコインは楷書体^{かいしよ}で、1633年に「常平通宝」^{じょうへい}が発行される際に八分書体^{はつぶん}（楷書に近い隷書体^{れいしよ}）で再度鑄造されましたが、このコインは日本ではほとんど出土しません。

朝鮮半島では、それまでもコインが鑄造されたことがありますが、発行数が少なく、需要も少なかったため貨幣経済は浸透せず、米や布の物々交換が続いていました。世宗は貨幣経済の浸透を試みて発行しましたが発行量が少なく、信用が得られなかったので一部でしか使われませんでした。

朝鮮は1417年から海禁策をとっていたため貿易が制限され、交易量が少なく、海賊（倭寇^{わこう}）が活発に活動したり、豊臣秀吉の朝鮮出兵が起こるなど、日朝交易が困難な時代であったので、日本で出土する量もごくわずかです。



下線の付く言葉の解説は裏面にあります

李氏朝鮮の貨幣経済

世宗は朝鮮通宝のほかに 1401 年に楮こうぞで作られた紙で作成された紙幣「楮貨ちよか」を発行し、鑄造量が少なかった朝鮮通宝とともに貨幣経済の浸透に努めましたが、貨幣政策が安定しなかったため信用が築けず、数十年で使われなくなりました。

李氏朝鮮時代初期は農本思想に基づく経済政策をとっていたので、商工業は官僚や貴族階級、官庁で使う程度にしか発展しておらず、ソウルと平壤以外は自給自足的経済と物々交換が行われていたので、コイン自体が必要とされていませんでした。

一方、この頃の日本も同じように独自のコインを発行していませんでしたが、中国銭を大量輸入して貨幣経済を浸透させることに成功しており、1429 年に来日した朝鮮通信使は、日本の貨幣経済を見て、「銭が盛んに用いられ、布や米による支払いを凌駕りょうがしている。だから、千里の旅をするものであってもただ銭貨を帯びるだけでよく、穀物を携帯しなくてよい」と報告しています。

朝鮮では貨幣の材料である銅を日本から輸入しましたが、海賊（倭寇）の活動や豊臣秀吉の朝鮮出兵のために安定して銅を輸入できず貨幣が造れない状態が続いていました。日本が江戸時代に入ってようやく交易が安定すると、仁祖は 1633 年に「常平通宝じょうへいつうほう」を発行し、貨幣経済の流通を促そうとしましたが、今度は後金・清との戦争（丁卯胡乱・丙子胡乱ていぼうごらん へいしごらん）が起こり、経済が混乱して思うように進みませんでした。そのため、朝鮮で貨幣経済が浸透するのは、胡乱後の混乱を立て直した肅宗が 1678 年に十分な量の「常平通宝」を発行してからになります。



楷書体



八分書体

参考文献：福岡県教育委員会 2013 『五ヶ山 I』 福岡県文化財調査報告書第 237 集

写真：本館撮影

(文化財調査室 秦)